



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

CITATION:

雑報. 地球 1927, 8(4): 309-314

ISSUE DATE:

1927-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183333>

RIGHT:

替、物價等一般商業の概念を明にし、轉じて思想から宗教、衛生に及び、日本の財政經濟を詳にして更らに國際上の日本の位置を明にしてある。統計表二三一、圖表一三五、いかにも「日本經濟圖會」たるの名に背かない。戰後好況の夢漸く醒めて、日本の將來を想見するの時、既に武藤山治氏の實業政治、下村宏氏の財政讀本などが出て、農村青年の歡迎をうけたことであるが、穗積博士の民法讀本などのやうな政治上の常識を與へる目的のものと、併せて本書のごときは政治經濟地理の常識を天下に普及せしめんとする絶好の著述で將に双壁であるといつてよい。蓋し一般世人の歡迎をうくるであらう。教育家や地理學者の手によつてこうした書物が出て然るべきと思ふが、さうした人の書籍はつい學究的になりやすい、こゝに於てか有力にして國を憂うる實業家や政治家が民衆讀本としての出版によつて、極めて容易に國民の常識を高めるの道に出たと見て敬意を表する。予は如斯き正確な統計をもつて、かくまで明白に國勢を眼前に描出した著者の勞苦を多とすると同時に、日本の政治家や學者たちもこれを一讀して啓蒙の途に出でられんことを望み、この書の大に天下に廣布せんことを祈るものである。(藤田)

○地理教材研究第十輯

東京日黑書店

昭和二年六月發行

定價二圓三十錢

本輯の口給に慶長十四年の出雲大社の町の圖が出てゐる。これは餘程珍しい古地圖でこれによつて杵築の現在とを比

較し得らるゝが、特に面白いのは町家でもこの附近現今の農村同様になれ生駒をもつてあることである。最近に聚落研究といふことが流行して各方面に論議されるやうになつたが本輯には大根島や、横牛盆地の聚落研究のある外に西龜正夫氏の九州地方聚落瞥見記がでゝある、中に有明灣の周圍にあるグド作りの説明が面白い。平入と妻入がいづれが古いかと云ふ論は、恐らく妻入が古いのであらう事は、筆者も同感であるが、九州南部から四國、紀州のハイランドには、古くから平入があつて、妻入の形勢をうけてゐないらしい痕跡がある。この點は更らに多くの報告をうけ調査をしてみたいと思ふ西龜氏の研究を頻はしたい。帷子氏のアフリカ地體、石原氏の日本地質學の進歩いづれも有益の文字で、國館のヤマセ(東偏風)の研究の如きは地方的に面白いものであると信する。其他九州方面の都市の研究が多い。卷末に一輯以來の總目錄をつけてある。蓋しこの研究の發刊以來滿五年をへて將に成人期に達したことを語るものである。菊版三〇三頁、いづちながら西田君の勞を多とする。(藤田)

雜報

○奄美大島の貝類

今夏 聖上陛下奄美大島に行幸あらせらるるを機とし鹿兒島縣では豫て 陛下が博物學に御造詣深く御熱心であらせられると云ふことから御歡迎の一として大島に於ける各種天産物の狀態を天覽に供することにした。

それで夫々の専門家に囑して其調査并に標本の製作とともに陛下御入港の御御前に於て御説明の任に當らしめたのであつたが、本邦貝類界の寶庫として夙に其名を知られた同島の貝類に就ては微生招かれて其任に當るの光榮を擔つた。私は七月二十六日から八月十一日まで同島に滞在して諸種の方法によつて、五十種の献上用標本と三百五十種内外の天覽用標本との二組を調製して其の内容目錄并に御説明書とともに御前へ差出した。猶御召艦山城へ伺候して御前に於て二回、前夜は水槽中に他の魚類とともに放養せる貝類について、其翌朝は御食堂に陳列した貝類標本に就て簡単に御説明申上げた次第である。鹿児島縣では今回の學術調査の全部を一冊に纏めて遠からず記念出版物を編むの計畫があると聞くから委細は同書に待つこととし、爰には單に一團員の動靜として報告するに止める。

御説明書に認めた如くに本島の貝類は豫想以上に豊富で本邦産全數の約三分の一乃至四分の一の種類が知られて居るがこれは一に永年間の努力によるもので僅か旬日間の仕事としては漸く前に述べたやうに三百餘種を纏め得たに過ぎなかつたことは多少の遺憾であつた。御手許へ奉つた御説明書は次の如くである。

大島産貝類ヲ初メテ世界ニ紹介セシモノハ西紀一八五九年米人グールド(A. A. Gould)氏ニシテ氏ハ北太平洋ニ於ケルリンゴールド、ロージャース兩人ノ指揮セシ米探檢船ニ便乗セシウキリアム・シムプソンノ採集セシ貝類ニ就

テ記載セシガ其ノ内大島産貝類二十七種アリ、陸産貝類ノ一新屬 *Laporia* ノ如キハ其ノ當時ノ命名ニ係ルモノナリ。

其後明治ノ後半ニ於テ京都市ノ貝類研究者故平瀬與一郎氏ハ屢其ノ採集者ヲ本島ヘモ派遣シ陸産貝類ノ蒐集ニ力メ、傍ラ本島在住ノ篤志家ヲ通ジ盛ニ海産貝類ノ採集ヲ行ヒ、其他ニモ是ガ採集ニ志スモノ續出シ、爲メニ本島ハ世界中稀ニ見ル貝族饒産ノ地區トシテ知ラルルニ至リ今ヤ海陸淡水産ヲ合スレバ其所産ノ種類數實ニ一千種ヲ超エ、帝國版圖内ニ産スルモノ、約四分ノ一ハ本島ニモ之ガ産出チ見ルニ至レリ、然レドモ此示數タルヤ永年ニ亘ル努力ノ結果ニシテ一朝一夕ノ業ニ非ザリシハ論ヲ俟タズ、其貝族ノ内容ヲ細則スレバ左ノ如シ。

斧足類 一九七種

掘足類 四種

雙神經類 若干

腹足類 (八六〇種)

櫛鰓目 七四四

後鰓目 六七

有肺目 四九

有殼頭足類 二種

而シテ以上ノ種類ノ分布上ノ特徴ヲ考フルニ海産ノ諸種ハ其殆ソド全部ハ印度太平洋系ニ屬スル熱帶性ニシテ分布極メテ廣ク、故ニ大島特産ト見ラルベキモノ極メテ少數ナリ、然ルニ陸産ノ諸種ニ至リテハ太平洋中ニ在ル孤島ノ故ヲ

以テ特産種ニ當ミ僅少ノ分布廣キモノヲ除ケバ其ノ大部分ハ獨立種乃至之ニ近キモノニシテ珍種多シト雖モ夏季ハ毒蛇ノ禍アリテ採集スルヲ得ザルヲ遺憾トス。ナホ是等陸産ノ諸種ハ全般ヨリ見テ琉球臺灣等ノ諸種ト共ニ南支那系ニ近縁ヲ有シ海産ノ諸種ト共ニ日本内地産ノ諸種ニ對シテハ類縁却ツテ遠キヲ見ル。

爰ニ陳列セシ三百餘種ノ大島海棲貝類ハ單ニ其一部ヲ示セルニ過ギズ。

かくて第二日の御前に於ての御説明には此一千餘種の棲息區域別は

陸棲

一陸棲

一淡水棲

一海棲

其他の全部

等のこと、海岸は珊瑚礁の爲め引網が不可能で充分の底棲貝類が未知なること、今日まで知られて居る種類は略淺海性であつて分布至つて廣く西は紅海から東は中部太平洋に産すること、將來深海をドレッサして採集することが出来れば更に多くの種類が加へらるゝに至るは明であつて分布狀態も今日と異つた解釋を要求する時期があらう等のこと、芋貝、室貝、車磔、而貝類等重厚麗彩の貝類が特徴なること等を申上げて引下つた。

なほ終に一言附記したいことは貝類は格別に留意になつて天覽用として調製した三百餘種も全部御嘉納御持歸りの光榮に浴したことは縣當局は申すまでもなく其任に當つた私共

も感銘を禁ずる能はない次第である。而して第一夜には學術調査員一同を御前に召されて茶菓を賜ひ、後活動寫眞の陪觀を差許され、剩へ御菓子并に酒肴料までも下賜せられて重々々々破格の待遇に預かつたことは恐惶感佩措くところを知らなかつた次第である。(昭和二年九月八日 黒田徳米)

○西山油田千間掘出油

日本石油會社の千間掘井たる越後西山油田、谷口式五十五號井は昨年十月二十二日開坑以來順進中の處深度一、四一六米にて八時四分一管にてセメント水止を施し掘進中、深度

- 一、四二〇米より 砂交り頁岩 少量の瓦斯
- 一、四五一一、四五六 軟砂層 油氣瓦斯
- 一、四六五一一、四六八 同 同約二十五石
- 一、五二三米 増油

一、五七〇一一、五九米 凝灰質頁岩、小砂互層 出油右の如く三ヶ所にて出油、更らに掘進をつゞけしに瓦斯益々強烈となり、猛噴の徴あり、依て濃泥を注入して掘進中經過益々良好にて相當油量を收めうべき見込あるを以て、深度一、六六〇米(九百十三間)にて一先づ停掘し試油せるに四月十九日自噴を開始し三十餘石の噴油あり、翌日より油量を増加し爾來今日に至る迄引續き日産七、八十石に達したり。

○北樺太の石油

北樺太石油會社總會に發表せる大正十五年六月より昭和二年三月に至る同社探掘の概報によればオハ鐵場に於て新掘井六坑と從來のもの八坑あり、新井は何れも深さ一五〇米乃至二〇〇米(八十二間五分乃至百十間)の

淺層油にして成功當時一坑日産九十石乃至二百六十石弱を採油せり、貯油の五千噸鐵槽は八臺あり、貯油力は四萬二千噸なり。ストウ礦場にて試掘井一坑の開坑準備中であり、尙本年度夏期に於てオハ原油二萬噸を搬出せりといふ。

○三州の玉糸

我豊橋市は玉蘭より製造する所謂三州玉糸の特産地にて其生産は實に我國玉糸總産額の約六割を占め年産額四萬梱金額千八百萬圓を上下して恰も長野縣諏訪湖畔に於ける生糸業と相並び本邦製糸界の二大中心地たり。

抑も此玉糸の發達を來たせし濫觴は明治十二年六月群馬縣南勢多郡富士見村の小淵しち女が伊勢參宮の途次渥美郡二川町に宿泊し偶々此地の玉蘭繰糸器の極めて幼稚にして殆んど繰糸の術を知る者なきの狀を見て豫て郷里にて自分が知得せし繰糸の術を物語りしたるに附近の者暫時止まりて繰糸の術を傳授する様懇請し彼の女も是に意を決し十二年七月より製糸の術を傳授す夫れより其術漸次廣まりて終に今日の盛況を呈するに至れり小淵氏は今八十餘の老齡なれど尙壯者を凌ぐ壯健さにて現に東參第一の玉糸製糸業家たり。

(會員 和田彌内)

○歐亞聯絡

大正十五年十月二十二日より十一月十八日に至る間ベルリンにて開催せられた第二回歐亞聯絡會議が開かれ、日本、支那、白耳義、伊太利、埃地利、致須、露國、ラトビア、エストニア、リシアニア、ポーランド、獨逸、佛蘭西、十三ヶ國の運輸機關代表者の會合で、十年間中絶してゐた西比利亞經由の歐亞聯絡を復活することになつた其議定書

によると、(一)東支鐵道の参加により浦鹽經由ハ、ロフスグ又ハハルビン往き釜山、大連經由ハルビンに至る四線共に西歐と聯絡することになり。(二)國際運輸規則が簡單明瞭となり。(三)シベリア鐵道の時間を改正して、長春、釜山、滿洲里直通列車を運轉する(四)特別急行車をベルリンよりハルビン經由にて一週一回、釜山、大連、浦鹽に通じ。(五)シベリア線は延長して朝鮮海峽から、英國海峽に達し。(六)小荷物の聯絡運輸が協定され。(七)直通列車の食堂車寢臺車は、フランスの萬國寢臺會社の直營することになった。但し實施は本年八月一日からで、日下は東京からレンングラード又ハリガまでしか達しない。

○呼海鐵道の延長

滿洲呼海線の起點たる松浦鎮より、綏化に至る百十軒の線路敷設は本年二月竣工し、同月二十三日開通式を行つたが、三月下旬の解氷期に至り凍結せる土砂を盛り上げて造つた線路が崩壊して列車不通となり、八月六日から漸く夜間の運轉を見るに至つた。しかし最近工費四百七十萬元の豫算を以て延長線をやりかけてゐる。

○英國の大航空船

日下英國に於て二箇の大航空船が建造されてゐる。二つとも同大で其骨組は無鋸鋼鐵であることが、新しい試である。容積一四〇、〇〇〇立方尺、長二二〇米高四十米六百馬力の發動機七箇を供へ、重油を用ふ、一時間七九五匹の重油を要し、最高速度一二〇軒、積載量一五五噸内七十五噸は燃料、バラスト、水、旅客、荷物に當てられるから旅客と荷物、約二十噸。プロペラは鋼製である。其

格納庫所在地は Cardington にして從來の同所の格納庫は大擴張を要するといふ。一九二八年には印度への初航をやるさうであつて、印度のカラチと埃及とに繋留塔が出来るといふことである。本航空船の使命は植民地と英本國との連絡を確實に近接せしむるのみでないらしい。(航空記事五八號)

○波斯 Dindard 經由による印度波斯貿易

波斯に對する輸入貿易通路は、北部にはロシアから裏海を通じて輸入せられる途と、土耳其からアセルバイジャンを経て入る途があり、南部にはバグダットから波斯國境鐵道終點地 Karkun から内地に入るものがあるが、近頃は印度カラチから鐵道によつてゾグエダツプ經由の貿易が増加してきた。

茶と砂糖が主なものであるが、本年から右二品が專賣制度を布かれたために課税が増加して、大に輸入量に障害を與へたけれども、輸出品はこの鐵道によつて發達し羊毛、カーペツト、皮類及腸等の多量が海外に出され、本邦對アフガニスタンの貿易の如き、やはりこの鐵道によつて行はれてきた、本鐵道最近の貨物輸送量左の如し。

輸送噸數 同貨物價格 換算

一九二四	一、六六八	二八、〇〇〇、〇〇〇留比	一、六六八、〇〇〇磅
一九二五	一、八二〇	三、一七〇、〇〇〇	一、八二〇、〇〇〇
一九二六	一、五七五	三、一七〇、〇〇〇	一、五七五、〇〇〇

○ウラル州の鑛業

ソヴィエツト共和國の中に於て、ウラル山脈地方に最初に行政經濟上獨立の單位としてウラル州をつくる。其面積百六十五萬五千七百平方キロメートル、佛

蘭西、獨逸、英吉利、愛蘭、伊太利を合せたる面積よりも廣し之を十五管區に分ち、更に二百四縣に小分す。人口六百萬農民は其八割一分に達す。戰前千デシヤチン以上の大地主が土地を占有せしも、戰後農民自治團の手に入る。主として農牧に従事せるが、この地方の主要なるは其鑛産にして、露國中尤も工業の發達せる地域なりと稱せらる。古く十五世紀に於て鹽の採取行はれ十七世紀以後各種の冶金工業盛となり、十九世紀の初鑄鐵の製造高は一時三十七萬噸に増加せり、次で戰爭中は九十萬噸を出せるが、南露のごとくコークスがなきたために一八八〇年代にはこれに競争すること能はざるに至りし歴史あり、戰前、英國、佛國、白耳義、獨逸等の資本一億二千六百五十萬留を投下せり。

さてこの地方の鐵鑛業は主として磁鐵鑛及沼鐵鑛にして、磁鐵鑛はウラル山脈の東側にあり、其最大なるはフラゴザイチ山、ウイソーカヤ山、マグニトナ山等とす、埋藏三億噸と稱せらる、沼鐵鑛はバカリスコエの産世界的の名あり、木炭と共に燃焼して優良なる鐵を得べし其他ザガジンスコ、アバラエフスコエ等埋藏量多大なりといふ。かく鐵鑛總額五億噸に上り、聯邦の二割五分を占む。滿俺亦多量にありバンキール共和國内に産出多く埋藏量三百五十萬噸と稱す。石炭工業は最大産地キセロフスキー地方にして三億二千八百萬噸を埋藏し、良質の名あり、豊富なるはチエリヤビンスク炭田にして褐炭田四億噸を埋藏す露天堀にて採取せらる。ウラル州の炭田埋藏量九億五千噸の見込。銅産地も亦ウラルの東坂に

あり、著名なる銅坑ありて露國唯一の産地をなし年額一九二一年に一萬七千五百三十七噸なり。

ウラルには又金鑛と砂金鑛あり、戰前に比して衰へ居るも銅及白金と共に産出せらる。白金は勿論世界第一にして戰前世界産額の九割以上を産出したり、主としてタギリスキー管區に集中しイス鑛區を中心とす。一八二四年以後の事業にして百年間に四百噸を採取せり、現今白金鑛業は全部合同してトラストを組織しウラルブラチナ組合といふ。製鹽業は歴史尤も古くカマ川上流に散在す。鹽は地中深く、八十米の厚層をなせり、井戸によりて鹽汁を汲取り煮沸す。現今ヘルムソリなるトラストを組織す。石綿の産亦ウラル山地にあり。バシエノフスコエの産は世界的に有名也。埋藏量は六百六十三萬噸にして、其内三分二はバシエノフスコエにあり、このトラストの外にアラバエフスキエの石綿鑛區は米國人にコンセツションとして付與さる。曹達製造業もウエルフネ、カームンスキー管區産鹽地ベレゾニコフスキー製造所にて行はるウラル寶石の主なる産地はバシエノフオ驛附近にして、其の誇とする所はイズムルドとす。其他はブリヅベリール、アレクサンドリット、エフクラーズ等を一級品としグリゾリットトパーズ、ベリール等も二級品として産出す。スウエルドロフスクには寶石琢磨工場あり。

質疑應答

(問) 生動斷層(活斷層)を説明されたし。(大阪、濱川恵二)
(答) 火山を活動の狀態によつて活火山と死火山とに分け得る様に斷層を生動斷層と死滅斷層との二種に分けることが出来る。生動斷層と云ふのは今後滑動が起るらしいもので死滅斷層は最早如何なる運動も豫期されぬものである。この生死兩斷層の區別は一見明亮である様ではあるが、そこに違つた解釋がないわけではない。或る人は有史以來變動を起したところのある斷層及沖積世中に地表に變位を起した地形的證據のある斷層を生動斷層に屬せしめた。又或る人は斷層を山脈生成と結び付けて、之に關係のある斷層は今後も變動を起すかも知れぬと云ふ意味から生動斷層とする。それでこの第二の解釋によると生動斷層を死滅斷層より區別するには鮮新世の地貌に依ることが出来ることとなる。この地史的に現世の前の地形は生動斷層によつて變位されて居るが死滅斷層の影響を受けた地表を有しない。然し實際に於てこの區別をするところが困難な場合も多い。それで生動斷層と云ふのは有史以來活動したもの、地表に於ける斷層の形態性質から活動しきうなものと云ふとした方が實際上便宜であると思へる。ここに一言注意して置かねばならぬのは斷層の活動と云ふことであるが、これは地質構造的變動をすることで地殻内の出來事即ち内力の作用を云ふのである。例へば斷層崖に沿つた山崩れが起つた様な場合にはこれは斷層の活動ではなく、外營力に因つたもので、かゝる崩壊などを以て生動斷層なりとの證據となすことは出来ないのである。(N)